

2025 年 3 月 19 日

いなべ市議会 議会検証評価 **資料 1**

成熟度評価モデルに基づく評価に関する外部評価

(日本生産性本部 鎌田・千葉)

【はじめに】成熟度評価について

- ・議会改革は、まず議会運営の形式的改革（議会基本条例の制定など）を行い、次に実質的な改革（住民福祉の向上など）を進める。実質的な改革を実現するためには、議会独自の政策サイクルを確立・作動させることが求められる。改革の進展には議会の評価が必要であり、その評価にはシステム開発と目標設定が重要となる。
- ・地方議会成熟度評価モデルでは、議会改革を住民福祉の向上（いなべ市議会では市民福祉の向上）につなげていくこと、議会改革のバージョンアップをはかることを目的としている。
- ・市民を起点とする政策立案・提言や議案審査、執行機関の監視活動、議会からの政策サイクルの作動による議会の価値創造プロセスに焦点をあて、機関としての議会を包括的に評価することを目指したものである。「善い政策は善いシステムから生まれる」という考え方に基づいている。
- ・評価には「成熟度」という尺度を用いている。議会が実現を目指す理想的な姿に向けた戦略や実行のあり方、議会における政策サイクルの作動（議会活動のプロセス）と住民との関わり、活動基盤の整備、議会に対する信頼の増進、活動を振り返ることから得られる気づきや学びの活用といった視点から、評価を行った時点で議会がどのような状態にあるのかを明らかにしていこうとするもの。
- ・この「成熟度」は、「認識」×「方法」×「結果」に着目し、最終的には評価者の合議によって合意形成の上で判断されるものである。

「認識」前提とする考え方や目的に関する認識が議会で共有できているか

「方法」会期で途切れることが無く、成果を持続させていくため仕組みや制度などの形で継続性を持った取り組みがされているか

「結果」設定された目標に対する成果は生まれているか

【総評】

- ・ 今回の内部評価では、政策課題の明確化とサイクルの構築、住民との対話、情報公開と説明責任の充実、ふり返りの実施といったことに力が入れられ、1 年間という短い期間ではあるが、「取り組みを行った結果が表れてきている」と議会で認識されていることがわかる。
- ・ 活動への認識と高まりは、個々の議員の手ごたえにもつながっている。あいまいだった政策サイクルも、集中的な活動の取り組みにより明確化され、実質的な改革に向けて基盤が整ってきたものと評価できる。
- ・ 3 段階の成熟度評価については、おおむね妥当と思われる。だが、中には判断の根拠があいまいなもの、実施した活動の事実や回数をもって◎や○の判断を行っているものも見られる。
- ・ その活動の結果、市民に対してどのような効果や影響をもたらしたのかという視点からの評価が必要である。
- ・ 議会が、当事者としてどのような活動を行い、どのような課題や改善点を見出したか、次期任期の議会への申し送りという点では伝わると思うが、市民に説明するときには、評価の伝え方に工夫が必要になる。
- ・ 記述については、例えば、

A という仕組み（プロセス・サイクル等）があり、
B ということを行ってきた。
その結果、市民からは C という意見を得ることができ、
D という政策提言につながった。
市民には E という結果がもたらされ、市民福祉の向上につながった。
しかし、まだ F という課題も残されており、
解決のために G に取り組んでいく。

というような明示的な根拠を含めた記載を行うことも一つの方法である。
- ・ 議会基本条例との関係では、条例のどの条文に、成熟度評価の評価項目が合致しているかを整理する。そのことで、基本条例の条文に対する実際の議会における活動の取り組み状況が、把握しやすくなると思われる。

【個別項目】

視点①

- ・課題と具体的な改善策まで明示されているが、議会モニターに絞った記載になっている。問いと評価が整合していないのでは？評価の視点を広げてほしい。

視点②

- ・この1年で、政策サイクルを整備して課題を絞り込み、運用してきたことは評価できるが、成果という点はこれから出てくるものではないか？
- ・◎という評価ではあるが、課題や改善策を踏まえると○寄りの◎か？

視点③

- ・行動計画の策定と実践はこの1年間の成果と言える。市民の目線から見た成果はどのようなものか。成果に「市民にとって」という部分の記載を。

視点④

- ・課題の部分で、「広聴機能の成果があったとは言えない状況である」との記述がある。みんなの声カフェを実施した結果、何が得られて、市民にとってはどのようなメリットがもたらされたのかという部分が抜けている。
- ・今後の活動の成果に期待したいが、現時点では◎ではなく○ではないか？

視点⑤

- ・課題、改善点を踏まえると、○では？

視点⑥

- ・取り組みを継続するとともに、改善点の実践を期待する。

視点⑦

- ・活動の体制、基盤を整備したという点では◎だが、具体的な成果が出ている状態かというところ、次年度以降に期待というところではないか。成果の部分は現時点ではまだ○、総合的に判断すると○では？

視点⑧

- ・今後のさらなる実践を期待する。

視点⑨

- ・現在、体制はできたが試行錯誤的とのこと。全員懇談会の充実と改善点の解消は事務局と一体となって進めていってほしい。

視点⑩

- ・今後、議会 DX も加味して課題の克服、改善点の解消を進めてください。
- ・タブレットについては研修やマニュアルも必要かもしれない。

視点⑪

- ・取り組みの継続を。

視点⑫

- ・これまでの課題を整理して取り組み計画を策定・実践に移し、新たな課題の発見など議会改革を前進させる道筋を作っていることは評価できる。
- ・成果については、まだ弱いところがある。
- ・活動の継続と、市民の目線からの成果の把握を進めてほしい。
- ・成果を加味して総合的な評価は○か？

視点⑬

- ・課題から見ると、評価は◎ではなく○ではないか。議員間で共通の認識を持つことから記述の整理を。

視点⑭

- ・主権者教育、投票率の向上に向けての取り組みは、学校教育や選挙管理委員会以外との連携もある。視点と発想を広げて施策を考えてはどうか。

視点⑮

- ・ふり返りが、サイクルの中に取り込まれるようになったことは評価できる。
- ・問いに対する評価が整合していないのでは？ 一般質問だけではないはずです。
- ・成果の視点からみると、まだこれからなのでは。市民を巻き込んだ活用という部分も課題になるのでは？ ◎→○か。

視点⑩

- ・問いに対する評価が整合していないのでは？一般質問だけではないはずです。
- ・◎ではなく○、もしくは改選時の引継ぎなどを考慮した場合は現時点では評価せずかもしれない。